二十一日開催の秋季演奏会のプログラム発送その他の準備に没頭して弾奏の時間なく附近の料亭きぬで夕食を共にした後散会した。（出席者）馬場鴨水、戸田旭公、田中鵬水、梅原旭濤、矢吹旭美津、安住旭康、牧南水、古谷竟水、荒木旭媛、平井春嶺、植村寞水。

薩摩琵琶晴風会例会　九月十五日（休）夕東京杉並区高円寺会館（次号詳報）

故大舘洲楓氏に勲五等追贈　去る六月十八日逝去の楓氏に対し生前琵琶界に貢献された功蹟を賞し今般勲五等瑞宝章が追贈された。

中西鋏水氏住所改称　大阪市此花区春日出北二丁目十一番九号に改称。

杉本治作氏　本年二月以来入院加療中のところ八月二十一日脳血栓症で逝去、享年八十九。薩摩琵琶四明会の重鎮で淡々たる幽雅な演奏振りで定評があり又趣味で写真技術に秀で四明会の催しなどには必ず撮影を奉仕された。謹んで哀悼の意を表し御冥福を祈る。

（予告）

○…薩摩琵琶正絃会演奏会　十月五日（日）昼一時東京銀座交詢社ホール。京都四明会から平井春嶺氏協賛出演。

○…琵琶を楽しむ会　十月五日（日）十時ー十六時楽寿荘（京阪電車光善寺駅下車）。参加自由。

○…京都琵琶協会十月定例茶話会　十月十二日（日）昼一時会員矢吹旭美津女史宅。

○…ラヂオ琵琶放送　十月十六日（木）夕五時ー五時半NHK・FMで村木桜柳（新撰組）、水藤五郎（伊達政宗）の両氏放送。

○…〝邦楽語り物の流れ〟　十月十七日（金）東京国立劇場に於ける文化庁主催芸術祭には薩摩琵琶を取入れることとなり浅野晴風氏の出演が決定した。

○…筑前琵琶旭会全国大会　十月十八、九の両日（土、日）大阪市天王寺区上汐町府立中小企業文化会館ホール（地下鉄谷町九丁目下車）。主催日本旭会、司会大阪旭会。全国の精鋭により約百曲が披露される。

○…各派名流琵琶演奏会　十月十八日（土）夕五時半東京上野本牧亭、主催鈴木流泉氏。流泉（名月逢坂山）の外山本鶴声（足柄山）、山崎旭萃（安流）、前田秋声（西郷隆盛）、宅）を始め樋口禁水外四氏並に永田、菅根両氏の菊水流吟舞が演奏される。

○…筑前琵琶演奏会　十月十九日（日）昼一時福岡市少年文化会館、主催筑前琵琶保存会（会長嶺旭蝶女史）。今回は子供の演奏を主眼とした琵琶十曲の外ゲストに京都矢吹旭美津、田中鵬水（田村邸名残の花）、東京石坂鶴明（敦盛）を迎え又旭蝶外六氏の琵琶にピアノ、尺八、琴を取入れた新曲「秋の曲」が発表される。

○…錦心流一水会京都支部演奏会　十月二十六日（日）昼一時京都東山仁王門電停前本妙寺本堂。会員会友八名の外東京本部荻野甲水（羽衣）、大阪支部木村蓮水（戸隠山）四明会平井春嶺（城山）、京都琵琶協会梅原旭濤（堅田落）、同植村寞水（新作小督）の各氏ゲスト出演。

○…四方田錦隆演奏会　十月二十六日（日）昼群馬県藤岡市農協会館ホールにて創立十五周年記念演奏会開催。（四方田女史は高崎市針谷錦古氏の最高門下）。

○…琵琶と詩吟詩舞の会　十月二十六日（日）正午西宮市夙川公民館松下ホール、主催三浦蓮水会（市文化祭参加）。会員七曲、一水会神戸支部員三曲の外来賓として酒田市荒井藍水外三氏による「羅生門」、京都田中旭法、矢吹旭美津両氏の「羽衣」、並びに蓮水会長の「耳なし芳一」及び琵琶舞「淀君」が演奏される。

あとがき

ようやく待ちに待った爽やかな秋となり琵琶界も活動の季節を迎えた●四国や東北、北海道などを荒らした台風で被災者皆様の復興努力も並大低ではないが二百十日、二百二十日の厄日も無事に済んで先づは結構●今年の残暑は九月中旬頃まで連日三十五度の残暑で苦しめられた●月や星に行けるほど世の中が進歩発達しているのに残暑の厳しさぐらいクーラーに頼らずに何とかならぬものか…とつい愚智も云いたくなる●京絃毎号の「予告欄」拡充の御希望が沢山寄せられ編集子は出来得る限り期待に副うよう努力するが読者諸氏も細大洩らさず精々御連絡下さるよう重ねてお願い申上げる●これは皆様のお力添えがなくては到底出来ない事で十円の葉書の労を惜しまずに毎月五日までに是非とも御願いしたい。

昭和五十年十月一日発行（非売品）
編集者　植村寞水
発行所　京絃社
〒569　高槻市津之江北町一一ノ二三
電話　〇七二六（八五）六〇五一番

琵琶機関紙　京絃　第二五六号　京絃社

琵琶界時評

世界は総て復古調の波

＝欧米音楽界の復古調＝義太夫界の一現象＝波に乗せよ琵琶界

（東京）　坂本錦道

文明と開発の名のもと、人類に恩恵と幸福をもたらした所謂近代文明なるものも哀れ一場の悪夢であった。それを結果的に観れば人類の滅亡と云う末期的の症状である。曾って山紫水明などと云う表現はもう私共の周辺には見当らない、海や川や山その底辺も、そして空までも汚染され、人はもとより動植物に至るまで生存すら疑わしくなって来た。何という恐ろしい世の中になったものか。それよりももっと驚くことは人心の荒廃である。純粋なりし人々の心情、素朴なりし古き時代の情緒は全く跡形もなく消え失せている。

古いものは何でも時世遅れとし、之を悪とする考えは近頃やっと人々は気が付いたのか、古いものゝ中に新しい価値を再評価すると云う、新旧共存の現象が生れて来ている。日本文化の中にも明らかにリバイバル調の兆し歴然たるものが出てきている。

これを音楽に例をとって見ると、欧米はいまや完全にノスタルジアブームの渦中にあるとされている。最近の米国音楽界を見聞して来られた評論家鈴木道子さんのレポートによれば、さしも一世を風靡したあのロック、ポップスも既に限界が来て、代って五十年の過去に逆って、とっくに忘れ去られていた名曲が猛然たる勢いを以て復活して、過去への郷愁が一段と高まりつゝありと報じている。

一方英国を見ると、最近帰朝された文化大学有村教授の見聞記によれば、六〇年代のポップの全盛をもたらしたビートルズも影を潜め、代って古典床しき英国のクラシック音楽が勢いをもり返して、十六世紀後半エリザベス一世時代の遺産であるオーソドックス的音楽が、新しい生命力を得て現代に再現し、世界は一様にノスタルヂァブームに沸き返っているとの事である。

ところが何事も欧米の後塵を拝している日本の音楽界も、御多聞に洩れず今日のテレビの放映を見ても、ナツメロと云う郷愁的の番組がいよいよ盛んになって来た。この現象に対して、京都大学の矢野暢助教授はこう説明している。「去る八月二日NHKの思い出のメロデーと云う番組に、私はやたら感動していた。特に戦後のリンゴの唄に始まる二十年代の歌謡曲は、私が未だ幼なかった敗戦と云う痛撃を受けていた時、一連の流行歌を媒介として一つにまとまっていた。今私がこの古い歌に涙を流す理由は、何も歌自体が素敵だからだと云うのではなく、寧ろその当時の日本人の敗戦より立ち上ろうという健気な心情は、こうした一連の流行歌をして決定的な地位を占めたことは後にも先にもない。今の日本の流行歌はどうか、今流行している歌謡曲を二、三十年後に聴いて、果たして涙する人がいるであろうか、恐らく逆に吐き気を催すことであろう。」

さて今年になって日本を訪れるクラシック音楽団は、日本の不況何処吹く風とばかり、古式豊かな聖歌隊を始めとして、各国の正統的音楽団の来朝は既に百を越す数字を示している。また日本人の音楽団体やリサイタル広告を取扱う東京新聞には、毎日八件から十件は掲載されている。日本人の中にも正統的音楽の愛好層が部厚くよみがえって来ている。

最近の赤旗の芸能欄にこんな記事が載っていた。義太夫と云えば琵琶同様の凋落組の芸能であるが、東京の義太夫協会が復活発展の企画として、義太夫教室をつくって研究生を募集した。主催者側は十人も集まれば大成功と計算していた処、何と七十八人も応募者が

あって、協会側はびっくり仰天して教室探しに一苦労した。そして赤旗記者がその研究生に応募の感想を聞いたところ―「西洋かぶれのキイキイ、キャアキャアはもう我慢出来ない、やはり古典は人間の悲しみや嘆きを卒直にヒタ向に歌って、自分は日本人であるという感触が湧いて来る―。」仲々我が意を得たる言葉である。

最後に琵琶界の現況である。その展望については悲喜交々の意見が今日までの京絃紙上に展開されているが、琵琶界は確かにドン底の凋落ぶりである。その底辺より這い上る苦労は一と通りのものでない。高名の弾士は次々と世を去る、残された弾奏者の年令を見ると、概ね六、七、八十才台に集結している。この年令的断層は、やがて今日よりも尚一層の凋落必至と見る向もある。

更に今一つ凋落の大きい原因として、あの戦争を前後しての技芸の停滞、之は邦楽全般にも云えるが戦後の虚脱状態と食糧難時代、少くとも前後通じて十五年や二十年間は満足な修練がなくブランクがあったと思う、技を磨くべき四十、五十才台の時期である。一番大切な年令期にその技法を修整するにも、先師達も疎開や世を去る等で助言や苦語をして貰うに由なく、旧来の惰性で忘れ勝ちな記憶を辿り乍ら、卒直に云ってその技法は寧ろ退化していたと見ねばならない。洵に我々時代の者はその苦難の道を歩んで来たものである、これでは今日の青年男女に感動を与えるどころの騒ぎでない、こうなれば老腕に鞭打つより外に道はない。

然し世の中は一概に悲観したものでもなく、捨てる神もあれば助ける神もある筈で、最近の正絃会を例にとれば、辻東舟先生の健闘結実で舟号を認可された若い方々が、毎月の例会に十名位は名を連ね、一人歩きの出来る後継者が出て来た。また先日山口速水先生にお会いした時、一水会の現状を一寸聞いて見たところ、新しく認可証を授与される初、中、奥、皆、総伝の方々が年間五百人は出ているし、水号允許者もこの中に百数十名は含まれているが、往年のブームに接近するには程遠いにしても、全国に百五十六個所の一水会支部が開設される迄に延びて、その活動も漸次上昇し、次代の後継者育成の骨組と段取りも出来上りつゝありとの事、琵琶界の展望については、若干愁眉を開いてもよさそうだ。

（予　告）
岡部錦蝶米寿祝賀
琵琶演奏会
時　昭和五十年十一月三十日(日)正午より
所　大阪市立西区民センター一階ホール
（地下鉄千日前線西長堀駅下車）
電話（〇六）五三一一一四〇〇番
主催　岡部錦蝶親族一同
後援　琵琶諸団体
来聴歓迎

私の音楽ノート（八）

水藤五郎

判ることばと判らないことば

「ことば」が判ると云うことは、その意味を解することが出来るとのことであります。如何に判り易い歌詞を作り出すか、これが琵琶のみならず、歌唱音楽の創作にとって大切なことであります。ただ、こゝで判るというのが問題でありまして、今日使われている日常語で作詞されているから、判り易いとのみは云えないのであります。その音楽の本質が大切なのではないでしょうか。

大体、歌詞を伴った音楽の場合、その歌詞の意味が判ると云うことが、その音楽を味わうのに重要な決め手となります。私達が、ドイツ語でうたわれる「野ばら」や「リリイマックレーン」、或いはラテン語での「ある恋の物語」、イタリー語での「オゝソレミヨ」等々を聞いて良かったなと感動し、その時に言葉の意味が判らなくても、曲想やメロディ、テンポ等が良いから良い曲は良いのだ〃と半ばあきらめを抱いた気持で叫ぶことがあります。実際はその言葉の意味が理解出来て感覚的にとらえることが出来るならば、その歌を心から味わうことが出来るでしょう。

人間の語学力には限界があって、ドイツ語もイタリー語も英語も…等と云う訳にはゆかないので、決して名訳とは云えない邪文を口ずさむことになるのです。たゞ、多少なりとも音楽や言葉に心を傾ける人は、日本語でこの外国の歌を唱うことには抵抗があるのが本当のところです。何となくピンと来ないし、リズムに合わないのです。合わないのが当然ですからピンと来ないので、ギターの曲を箏で弾くようなものであります。

テレビの洋画が日本語に吹き替えて放映されていますが、よく注意してみていると、流れて来る日本語と登場人物の口の動きとが、相異していることに気がつくことがあります。特に欧洲系の番組、フランス語やロシア語等にその例を見ることがあります。近頃はこの吹き替えの技術も大変進歩して、極めて巧妙に口の動きと「ことば」とを合わせてストーリーを組立てゝゆきます。これはテレビ文化の生んだ重要な発明技術の一つでありましょう。

いづれにせよ、発明形態、その音声、リズム等が著しく異なっているのですから、日本語の持つ特質のまゝでイタリーの民謡を味わうのがピンと来ないのであります。特にイタリー語とラテン語、加えて英語等の歌はそれが強いように思えます。

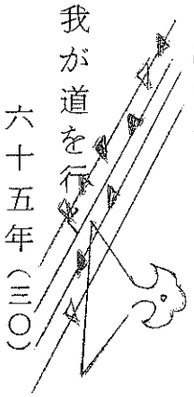
これとは逆にロシア民謡等は、それほど抵抗なく唱うことが出来ます。「仕事の歌」「山の娘ロザリア」等、随分私達の心を慰めてくれます。これ等を唱う時に、日本語の歌詞が自然の音に聞こえます。ドイツ民謡の「故郷を離るゝ歌」等も同じことが云えます。

この様な感覚が起こる原因は、これからの民謡が全て単調で構成されていて哀調に満ちている、そしてリズム的にも単性なものであるる関係から、日本語そのものゝ特徴と合っているからだと考えることが出来ます。イタリー民謡の「サンタ、ルケア」を例に挙げれば、明かるい長調（ハ長調）でありリズムは3/8、これはロシア民謡の「仕事の歌」が短調（ニ短調）で、リズムは4/4と比べてみれば明らかであります。日本語のリズム感が二拍子に適していることは誰もが知る処であります。そのことは倍数リズムは皆同様であります。則ち4/4がこれになります。但しこれが全てではありませんから、三拍子が適さないとは申しません。

早春賦（吉丸一昌作詞、中田章作曲）の「春は名のみの風の寒さや」と唱われるリズムは6/8拍子ですから三拍子の系統になりますし、お琴の「六段」の冒頭の拍子は三拍子、琵琶には三拍子になる合の手がよくあります。然し言葉の問題で云えば、二拍子のリズムと単調めいた悲哀感が日本語の要素となりましょう。

ロシア民謡は人々の心の訴え、特に帝政ロシアに至る迄の、ロシア独特の封建的社界にあえぐ農民、労働者の叫びがテーマとなり、又、暗くそして大きな自然の中でうたわれた歌が多いなど、単調となる要素に満ちているのであります。これがロシアの東洋的な要素と見ることも出来ます。広い国土を有するロシアではヨーロッパ的な面と、私達の源流であるアジアの面も持っていると解することが出来るのであります。

長々と書いてきましたが、音楽の基盤と云いますか、本質と云いますか、兎に角根本的なところで判り合っているのであります。単語の一つ一つが判る場合の「判る」ということゝこれとは別に感性として「判る」ということ、これが問題なのであります。「ことばが判る」と云うのには、この意味で二つの場合が考えられます。琵琶の歌章を見る時、単語の意味についてはそれほど難解ではないのです。この限りでは「判ることば」なのですが、それが琵琶歌となって演奏されると「判らなくなる」のです。



我が道を行く

六十五年（三〇）

西郷天風

さて、その年の秋恒例の陸軍大演習が茨城、栃木、群馬方面で行われた。当時宇都宮に薩摩琵琶の重鎮として関東北にかくれなき名手阿部吟風氏が居り、それが鳳鳴会々長木上武次郎先生直伝の先輩と云うので、その数年前

から別懇の間柄となっていた関係から、この大演習を卜し、水戸の琵琶大会に招聘して大好評を拍し予想外の盛会裡に終了したが、其まま別れてしまうのが何とも名残おしく、宇都宮近くまで同行二人の琵琶行脚を思い立ち、途上、友部と下館の二ケ町だったろう、旧知の町長を頼りに演奏小会を催したが、其時どちらの町だったろう、此琵琶会を政争の具にして政友会系の町長派に対し、民政党系では町内きっての名望家を擁して、琵琶界の当日某料亭で大宴会を催し、折角琵琶会賛助の承諾を得た有志達が全部吸収されてしまうと云う、おかしな事態に遭遇しながら最后の予定地、前橋市指して出発した其時、之が亦哄笑を今日に残す面白い思い出を止めた。

大体阿部吟風氏は中学二年の時失明した中途からの盲人で少々勘が鈍い方だった。従って列車に乗るにしても何となく覚束なく、琵琶の他に身の廻り品の鞄もあり、附添格の私も同様であるのに、田舎の駅は改札口からプラットホームえの道も、線路を横断するところやら、階段を昇るところやらで、足もとに気をくばりつゝ漸くホームに立ち一と息ついた其時、私は急に尿意を催し、ひと渡りホームを見廻したが便所らしい建物はなく、どうやら改札口附近まで戻らなければならぬらしい、列車はと見れば既に煙を吐きつゝ走って来る、マア客車に乗ればあるからと、吟風氏には琵琶だけを持たせ、三輛目の最后の乗降口に近い窓際に座席をとった。この列車は僅かに三輛連結で、私はその三輛の隅々を見廻したがトイレはなかった、そうなると妙なもので〻ヤケに尿が気にかゝり、列車が駅にすべり込むたびに眼を皿にしてホームを見渡せどそれらしい建物は見当らず、漸く四ッ目の駅にさしかゝる頃ホーム上の小屋を発見し、やれやれと安心したまではよかったが、僅か三輛編成の列車はトイレの前を遙かに通り過ぎて、駅の中央部まで進入して行く、尿意はいよいよ急を告げ、列車の停車寸前に飛降りざま走り出して、便器の前に立つ間ももどかしかった。此時を待つ正に四十分、それは実に永かった。

かくて放尿も最盛期に達した折、遙かに響く汽笛の音は閑静な四方に木霊して、正しく発車の相図である、驚いた私は急遽放尿を中止して飛出し、始動直後の列車目がけて一目散に走り出した其時、吟風氏も私の乗おくれに気付いたらしく、窓から半身乗り出して黒眼鏡の顔をこちらに向け〝オゝオゝ〟と叫ぶ声が聞こえた。進行確認の駅員は、何事か判らぬまゝ黒眼鏡の顔に引かるゝ如く列車を追い初めたが、もうその時は〝ポーウボウ、ポッポッポッ〟と煙を吐き上げる音と共に速力は早まり、私の叫ぶ声も足音も駅員には聞取れず、距離はいよいよ離れて絶望となってから、うしろに立つ私に気付き頻りに陳謝の意を示すが、私はそんな言に耳をかしておる暇はない、急ぎ駅長室に飛込んで、一刻も早く今の列車を追う方法を構じなければと駅長に迫った、駅長もこの始末には弁解の余地もなく、次ぎの貨物列車に便乗を認め、吟風氏には、二た駅先で下車するよう連絡が取れ、約三十分後に荷物や吟風氏と無事相見ることが出来た。

かくて約二時間後、目指す前橋駅に着くや、駅前から人力車夫の案内に任せて宿を取り、私一人その車で群馬県知事官邸に乗込み、社会主義地下運動盛んなりし時局柄、思想善導と云う触込みで堂々と対談の結果、〝謡曲なら自分もやるのだが、琵琶ではどうも…市長ではどうか、よければ紹介の労をとるが〟

そこでその好意に応じ車を市長の自宅え走らせれば、青木市長は、座敷に茶菓を用意して既に待っており、二ッ返事で承諾、その上市の有志宛紹介の名刺を、いとも簡単に与えて呉れたのであった。

何と幸先のよい事かなと大いに意を強うし、宿に帰れば吟風氏も大喜び、夕食は前祝の宴と化し、終日奔走の労れも消え去った。

翌日は早朝から市長の指示に従い車を走らせれば総て順調、中には演奏会の内容に触れ三曲合奏の加入を説き、出演者推選の労を引受けると云う有志も現れて、結局琵琶を二人で四曲、三曲合奏二題を含めて合計六曲となり、お蔭で堂々たる内容となった。

この様に琵琶以外に三曲合奏が加わるとなると、琵琶だけの粗末なプログラムという訳にはゆかず、殊に三曲の方は出演者それぞれの芸名と共に受持の楽器も明記する等、今迄

余り経験のないプログラム作りに、東奔西走の三日間は私一人の重労働だった。併し其苦労も当日の盛況を胸に画けば亦楽しく、やがて会心のプログラム入りの会員券を手に、先づ中学校の教員室を訪問することにした。

狂酔亭漫録（百十六）

龍宝山大徳寺（上）

古谷竟水

千利休が自身の木像を三門楼上に掲げた事が秀吉の怒りに触れ切腹を命じられたという京都の紫野大徳寺は、爾来茶道の祖として利休を祭り、本山を始め山内塔頭の多数の寺が茶席を設け、著名茶人と因縁を結び茶道を奨励した事から、現在では此の一団の寺は恰も茶道の本山の如き観を呈して殷盛を極め、歴代の管長や塔頭住職の揮毫物は茶人社会に歓迎され、其巧拙に不拘法外の価格で取引されるという珍現象を呈している。今回は此の大徳寺の沿革並びに現状をご紹介する。

大徳寺。臨済宗大徳寺派の本山。所在地は京都市北区紫野大徳寺町。

開山は大燈国師妙超。元白毫寺と称し天台宗に属して居たが、延慶元年妙超はその師大応国師示寂せるにより上洛し雲居寺に住し、のち元応元年赤松則村の援けを得て一小堂を建立し禅宗に改めた。妙超は建武元年玄恵等天台、真言の徒と論争して禅旨を闡明して以来花園上皇、後醍醐天皇の帰依を受け、正中元年寺基を拡張して龍宝山大徳寺と称し、二年上皇の勅願寺となる。元弘三年後醍醐天皇の祈願所に定められて「本朝無双之禅苑」の勅額を賜わり且つ五山の一に列した。越えて翌年南禅寺と相並んで五山の上刹となったが、南北朝となって至徳三年足利義満が五山十刹の席次を定むるに当って十刹に墜ちた。しかし文安二年宗頤養叟がここを董して大いに宗風を挙揚し再び五山の列に加わらしめた。その後、享徳二年火災にかかり、更に堂塔未だ全く成らざるに応仁元年再び兵火の厄に遭ったが、時の寺主一休宗純は文明五年後土御門天皇の綸旨を受けて再興に志し、和泉堺の巨商尾和宗臨及び寿源等を勧化し、同十年方丈を上棟し、爾来著々工事を進めた。天正十年豊臣秀吉が此処に織田信長を葬って総見院を建て、ついで生母のために天瑞院を営みしを始め、次第に諸塔頭が建立され、寺勢愈々隆昌に赴いた。江戸時代に入っても幕府の外護を受け、また玉室、澤庵、江月等の英衲の輩出を見たが、明治維新の変革のために塔頭中廃絶するもの尠なからず幾分寺勢が衰えた。

明治九年別派独立して大徳寺派を称し其本山となった。境内六萬八千餘坪。現在の主なる堂宇は総門、勅使門、三門、浴室、仏殿、経蔵、法堂、唐門、方丈、庫裡、鐘楼等。仏殿は寛文五年那波常有の寄進によるもので、天井の天人散花の画は狩野元信の筆にかかり、経蔵は高山寺の印ある「古本一切経」を蔵し、唐門は日暮門とも称し聚楽第にあったものと云われるが確証はない。当寺の諸門中の白眉とされ、方丈は玄恵が妙超に帰依して建立したのであるが、現在のものは寛永十三年の造営で、内に開山塔を設けず雲門庵に開山妙超の像を祀ってある。その楣間に花園天皇宸翰霊光の額をかかげ、襖絵は全部探幽の筆である。またその前庭は小堀遠州の作という。なを塔頭中、徳禅寺は当寺の第二世義亨徹翁の住院を以て著われ、真珠庵は一休の開基にかかり、その書院は通僊院と称して正親町天皇皇女の御粧殿である。芳春院は前田利家の室芳春夫人の開基で、開山は澤庵、江月と共に禿流の厄に遭った玉室である。（此稿続く）

不遇の偉人

高山右近

辻旭城

元亀二年（一五七一）摂津の国高槻城主和田惟政は、悪逆無道の荒木村重の攻撃を受けて落城、戦死した。五穀豊饒の地で一国一城の主となった村重は、農民からの年貢米取立てに酷しく民百姓を泣かせていた。

天正六年（一五七八）摂津一帯の領主荒木

村重が織田信長に反旗をひるがえした時、その大切な軍議の席に高山右近は居なかった。主戦派の中川清秀らが右近の反対を恐れて、殊更右近の留守中に会議を開いたのである。

右近が決戦のことを知ったのは軍議のあとで、このことを聞くや直ちに村重の許に馳せつけ、極力思い止どまらせようとした。只管平和を愛し正義を重んじ、人々の生命を尊んだ右近にとって、この戦は道理に背く戦争としか考えられなかったので、飽く迄村重の心を変えてこの戦を喰い止めようとしたが聞かれずに戦いは始まった。

大勢は既に決した、右近は村重の部下として高槻城を護っていた。高槻城は京の都に近い防備の第一線であった。両軍の攻防こそ戦の勝敗を決するところであった。

豪勇織田信長は、信忠、信雄、信孝、上野守等織田家一族を始め前田利家、佐々内蔵佐、不破彦三ら有力な武将達に高槻城を攻撃させ、自らは高槻城外安満山に陣して督戦した。

然し築城の大家右近が改築した高槻城は、広い堀をめぐらして高い城壁を持ち、敵の大軍を引受けてもビクともしなかった。而も之を護るのは軍略に長じた右近と、一心同体のキリシタン信者の武士達で、寄せ手の大軍は徒らに反撃を受けるだけで、落城など思いも寄らぬ有様であった。

信長はこれを知ると右近を苦しめる一策を講じた。即ち使者に手紙を托し〝右近よ、汝はキリシタンではないか、村重は逆賊だ、キリシタン宗門は不義には味方しないと私は聞いている、それが真実ならば逆賊村重に何故味方するのか、不義に組しないことがキリシタンの本旨であることを知るならば直ちに開城せよ…〟。更に〝従わねばキリシタンを禁じ神父や一般の信者を汝の面前に於て十字架にかける。〟とあと書がしてあった。

右近は非常に心を痛めた、信長の気性として、若し之を受けなければ信長は実行を憚らないであろう。右近は早速オルガンチノ神父に意見を求めた、神父は「信長の主張を受入れるのが当然の道と思われる、それは村重の部下であっても信長の恩義を受けているのに、之に背くのは不義の戦である。右近を高槻城に封じたのは村重ではなく信長で、不義の戦に組すべきではない。」という意見である。

天正十年（一五八二）六月二日、明智光秀のクーデターによって、信長は京都本能寺の露と消えた。その頃羽柴秀吉は備中高松城攻略の最中で、右近は信長の命により秀吉応援のため行軍中であった。その途中〝本能寺の変〟を聞き急遽高槻に引返したが、京に対する軍事上の要地高槻城は、明智勢に奪われているものと心痛していたところ、意外にも明智軍は高槻城を攻める迄に至っていなかった。しかも右近の妻ユスタは幼児二人を抱え、家臣一同と共に城に籠って留守を護っていた。

秀吉は信長不慮の死を聞くや直ちに毛利氏と和を講じ、光秀討伐のため尼ケ崎に於て諸将と作戦会議を開き、右近は三百五十の兵を指揮して山崎の光秀軍を攻撃、光秀はもろくも敗れて坂本城に退く途中、小栗栖村で無惨にも土民の竹槍で落命した。

信長亡きあと羽柴秀吉、柴田勝家の勢力争いとなり、天正十一年三月秀吉軍は近江余吾湖の辺りに布陣した。右近は最初中川清秀と共に美濃口に備えていたが、秀吉の命により余吾湖畔に陣する部隊の予備隊としてこゝに来援し、右近は岩崎山を、清秀は大岩山を守った。而し到着したばかりで未だ陣地が完成しないうちに早くも戦闘が開始された。

これは秀吉方の山路将監の裏切りによるもので、到着匆々の右近、清秀の陣地を攻めて秀吉軍の背後攻略を勝家に進言したゝめで、柴田方の佐久間玄蕃軍は間道を伝って秀吉の本陣を通り抜け、夜陰に乗じて一拠にこの予備隊を崩したのである。

近世日本史によると一信長亡きあと秀吉は柴田勝家攻略の軍をおこし、賤ケ岳で緒戦の勝利を飾った。加藤清正、福島正則、加藤嘉明、平野長泰、脇坂安治、片桐勝元、糟谷武則の七勇士が槍を振るって柴田勢に突入し勇名をはせた。世に云う「賤ケ岳七本槍」である。この合戦に秀吉は全力を傾注した。

賤ケ岳は滋賀県伊香郡木之本町にあり、国鉄北陸本線木之本駅下車、駅前からバスで七分、大音で下車して登山リフトで標高四二二米の、琵琶湖北岸にある史蹟で、北には余呉湖が眼下に、南に平経正が琵琶を弾じた竹生島の浮かぶ琵琶湖、東南には遠く伊吹の霊峰、

近くは虎御前山や小谷城跡のある小谷山などが一眸の内におさめられる。

今、頂上には戦跡の碑が建てられ、その傍らには七本槍の人々が奮戦した場所が指示されている。

雑詠（八月十三日）

滝原流石

夜を刻む添水（そうづ）に旅の夢あさく
夕顔や灯さぬ縁に幻影とゐて
幻影を追ふ夜空にひとつ星流る
山房に世を捨てゝ聞く木葉木菟（このはづく）
対局は長く蚊遣りの白き渦（うづ）
ふと道を過（よぎ）る蛇あり草いきれ

敬老慰問　八月三日（日）昼大阪市東区諸芸祭り　福祉会館、大阪琵琶同好会・大阪市福祉会共催。井伊大老一養老駿水　屋島の誉一宮之原聖水　川中島一矢野旭信　衣川一水谷旭甫　大楠公一作花旭秋　勘忍袋一光旭仙　本能寺一辻旭城　姫ゆりの塔一石橋旭嶺　曲垣平九郎一寺尾旭吉栄　白虎隊一中山鳳水、以上琵琶演奏の外詩吟舞、日舞、琴合奏、尺八、歌謡曲、浪曲などがあり、また、一千万円宝籤付債券や残念賞としてアルミ鍋等の寄贈があって老人達を喜こばせた。

藤巻旭鴻演奏会　八月二十四日（日）十一時東京千代田区大手町農協ホール（千円）。一門の外各流派の名手をゲストに迎え華々しく開催。尚プログラムは一曲毎に歌詞の内容を略記して聴者の参考に供した美麗なもので盛会であった。五絃弾一会員　良寛さん一藤巻旭恵・絃旭彰　小督一藤巻旭祐、初谷旭憲・絃旭鴻、旭史・笛牧原　大物の浦一柴田旭容、東野旭枝・絃旭章　秋風故郷山一藤巻旭星、清田旭茜・絃旭彰、旭薫・笛牧原　未練西行一中山旭礼、古川旭冷・絃旭鴻　衣川一黒田旭映、古川旭神・絃旭史　堅田落一大野旭翠、橋上旭英・絃旭鴻　天の羽衣一林田旭史、内田旭章・絃旭粧、旭凰、旭柱・笛阿部　吉野山懐古一南崎旭薫・絃旭利、旭洋、旭彰・笛阿部　羅生門一藤巻旭彰、藤巻旭鵬・絃旭鴻　千姫一藤巻旭鴻、斉藤旭章・絃旭利、旭桂・笛牧原　湖水渡一木原綾子　壇の浦一広瀬翠紅　仁科信盛一山下晴楓橘中佐一笠旭洋　綱館一岩橋旭秀、松岡旭文、釘宮旭嶺・絃旭鴻、旭彰、旭章　若き敦盛一富樫旭桂、横野旭鳳・絃旭粧、旭洋・笛阿部新選組一友吉鶴心　噫無情一柿木旭利、斉藤旭章、藤巻旭鴻、藤巻旭彰・絃旭静・琴野口・ヴァイオリン山田　玉藻の前一原島旭粧栗津ケ原一山崎旭萃　二〇三高地一会主藤巻旭鴻　新琵琶楽①汐風乙女、②荒城の月変奏曲歌絃二十一名の外藤間流舞踊十二人、琴一人、笛二人。

琵琶吟道演奏大会　八月三十一日（日）十時札幌市大谷会館大ホール、主催北海道神宮琵琶講。広瀬中佐一大友城水　川中島一本間進水　五條橋一加藤友水　本能寺一松永育水　井伊大老一室谷幹水　敦盛塚一川崎姿岳・荒木旭麗　伊豆の御難一草薙梵水・山崎紅水　景清一木村長水　茨木一渡辺飛水　西郷隆盛一来賓東京平井洲誠　常盤御前一同桑名洲聖　扇の的一内山鶴崇　耳なし芳一一金子天香　竜の口一小野蓉水　彰義隊一広川岳楓　あゝ結城先生一中井岳鳳。外に詩吟詩舞四十四題。

永田錦心先生五十周年記念錦心流琵琶演奏会　九月七日（日）昼大阪市北区天神筋朝陽会館、主催大阪緞水会本部。残暑厳しかったが数氏の来賓演奏もあり盛会であった。猿飛佐助一平岡克水　彰義隊一杭東詠水　敦盛(下)一中野淀水・近藤登水　俊寛(上)一中西鋲水　鋏引一森中志水　桶狭間一広瀬顕水　（以下来賓）河内の宿一川上琵水　城山一宮之原聖水　川中島一養老駿水　竜の口一前田絹水　巌流島一内田景水　湖水乗切一阿部勝水小栗栖一水谷浩水　桔梗の旗挙一平井洲誠新撰組一藤川晴水　白虎隊一北村吟清・小西甫水・絃小川吟水　屋島の誉一会主広瀬緞水。

京都琵琶協会　九月七日（日）会員平九月定例茶話会　井春嶺氏宅。午前十一時役員会を開き午後一時から月例会に移り来る